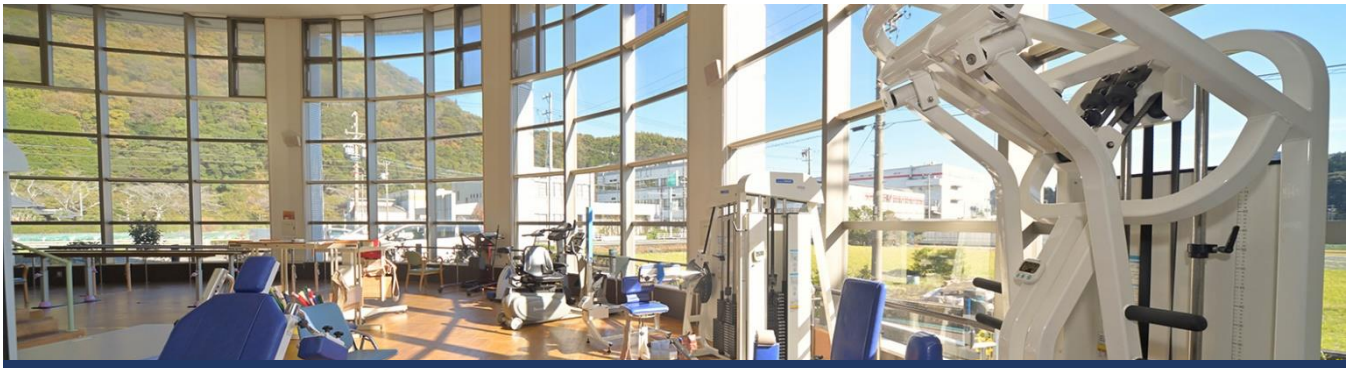
医療法人社団聖稜会　聖稜リハビリテーション病院



～多用な患者の症状に応じた運転支援で地域医療を牽引～
ドライビングシミュレーター月間40回程の利用数を誇るリハビリテーション病院

法人名	医療法人社団聖稜会 聖稜リハビリテーション病院
設立	1995年6月1日
所在地	静岡県藤枝市宮原676-1
事業	・125床（個室5床・4人部屋120床） ・診療科目：リハビリテーション科・内科 ・通所リハビリ ・訪問リハビリテーション事業・予防事業
従業員数	404名

■医療法人社団聖稜会 聖稜リハビリテーション病院について

聖稜リハビリテーション病院は、患者さんの「えがお」と地域との「きずな」を理念に個別性重視の質の高いリハビリテーションの医療サービスを提供しています。脳卒中や骨折などの急性期治療を終えられた方の回復期リハビリテーションを中心に、退院後の通院・訪問リハビリテーションも充実。約30年近く地域医療を支え、地域の方々と協力した健康増進・予防医療や福祉活動にも取り組まれています。

導入のキッカケ・課題について

■ドライビングシミュレーター導入で包括的な運転再開の評価を可能にする

同院は、運転再開を希望する患者に対して、従来は机上の検査しか提供できず、リハビリスタッフからはシミュレーターの導入が望まれていた。その中で、どのシミュレーターが最適か、効果があるのかについて悩んでいたところ、より実際の運転に近い体験ができるドライビングシミュレーター「Model A」のことを知り導入を決定したという。

同院が位置する地域は都市部ではないため、車がないと移動が困難であり、運転再開を希望する患者様が多くいる。机上の検査だけでは、反応や運転能力を把握する診断としては限界があり、その場の状況しか評価できず、実際の運転中の判断力や注意力などを評価することが難しい。そのため、机上検査とシミュレーターの両方を導入し、包括的に運転再開に対する評価ができるようにしていきたいという想いから導入にいたった。

導入においては、理事長とリハビリテーション部の部長（リハドクター）が積極的に導入を推進してくれたため、スムーズに導入することができたという。また、学会などでの運転評価やドライビングシミュレーターに関する情報もドクターが持ち帰ってくれたことも大きく起因している。

運転シミュレーターの活用

■幅広い患者の症状に応じた運転支援の環境・プログラムを提供

ドライビングシミュレーターは、1回20分～40分で実施し、多いときには月に40回程が利用され、地域の中でも利用者が多い。主な用途としては、評価や練習のために活用し、入院患者と外来患者の両方が利用している。同院ではリハビリ室内にドライビングシミュレーターを設置しており、運転評価のためのプログラムも設定されている。

まず評価実施前の段階では、「山岳コース」でドライビングシミュレーターに慣れてもらうことから開始する。ドライビングシミュレーター利用時は、酔いが発生することもあるため、そのような対応をとっている。慣らし運転を行った後は、単純反応検査、選択反応検査、ハンドル操作課題、注意配分複雑作業検査を実施し、最終的には危険予測体験の中級を走行し、総合的な運転評価につなげていく。このような同院のプログラムは、外部の専門家も招いて指導・アドバイスをしてもらいながら、最適化を図ってきた。それにより、これまで机上の検査では難しかった多角的な運転評価が可能になっている。

また、同院では、手動運転装置やアクセルの左右変更装置も導入している。これらの装置は、例えば、下半身麻痺の方が運転支援できるようにするための補助装置として活用しており、患者の症状に応じた多様な運転支援ができる環境を整備している。そのため、より多くの患者に運転評価の医療サービスを提供できる環境の点でも同院の強みにつながっている。

運転シミュレーターの活用

■その場で振り返るModel Aのリプレイ機能でフィードバックの精度を高める

ドライビングシミュレーター利用のメリットの1つに、患者の運転能力を定量的に把握し、客観性をもったデータで運転能力の評価ができる点にある。その際にポイントになるのが、リハビリスタッフから患者に対するフィードバックのフォローアップである。患者によっては、運転評価結果が実力以上にスコア化する場合があり、過度な自信につながり兼ねないケースもあるという。例えば、20～30キロの運転速度で実施した場合には、スピードは適切ではないものの、安全に運転されているとされ、スコア上は高くなる傾向がある。あくまでも運転支援はドライビングシミュレーターのスコアを高めることではなく、運転再開を目的とした場合に、適切か否かを判断・評価指導することが重要になる。

運転シミュレーターの活用

■その場で振り返るModel Aのリプレイ機能でフィードバックの精度を高める

そのため、運転評価結果が運転の仕方と一致しない場合は、ドライビングシミュレーターの横でリハビリスタッフがサポートし、その場でフィードバックするようにしている。特に導入した「Model A」はリプレイ機能もあるため、患者と共に映像を見返しながら、フィードバックすることで本人が気づけない点をフォローしているという。このように、日頃からのリハビリ活動の中で患者の性格や特性を把握し、患者一人ひとりに応じた運転評価を行うことで、ドライビングシミュレーターのメリットを最大化するように努めている。

同院では、院内の運転評価に関する教育も実施している。運転チームが中心となり数回に分けて勉強会を実施し、可能な限り多くのスタッフには参加してもらっている。リハビリ時は基本的に担当制で対応し、運転支援を希望する患者に対しては、全員対応可能な体制をとっている。また、運転チームでマニュアルも作成し、運転再開までの流れや進め方、評価基準などドキュメント化することで、標準化も図られている。

運転シミュレーターの展望

■自院の領域を越えて、地域還元を目指す

同院は、リハビリテーションの患者だけでなく、地域還元の思想のもと、外部に向けた活動も積極的に取り組んでいる。例えば一般の高齢者を対象に公民館等を利用して、安全に運転を続けるために必要な身体機能や認知機能の講習を行っている。開催時には20名ほどの高齢者が参加し好評を得ている。今後も同院の患者に限らず、一般の方々に対して安全運転の支援を続けていきたいと考えている。

また同院では、最新機器であるVRも導入され、これらの技術を活用することで地域医療に貢献したいと考えている。同院の理念は地域リハビリテーションの推進であり、自動車運転リハビリや小児リハビリなど、地域で不足している分野に力を入れている。これにより、患者様が回復期を経て住み慣れた地域に戻れるよう支援している。機器を活用しながら、障害を持つ方々が元気に社会復帰できるよう努めている。これらの取り組みにより、患者様の安心と安全を第一に考えたリハビリテーションを実現している。

HondaドライビングシミュレーターDB型ModelA

【お問い合わせ】
本掲載記事へのお問合せは以下でお願いします。

株式会社マネージビジネス
03-6429-9977（シミュレータ専用ダイヤル）
シミュレータ製品担当営業宛